

石川県立図書館 第223回企画展示

京都 上賀茂神社と 加賀・能登



上賀茂神社楼門



上賀茂神社二ノ鳥居



賀茂神社（かほく市）

加賀 能登 紀伊 和 周
右 肆 拾 貳 箇 所 神
金津庄 土田庄 桃浦
紀伊 伊 嶋



金津庄の景観（かほく市）



加茂神社（志賀町）



土田庄の景観（志賀町）

期間：平成27年9月11日（金）～10月29日（木）

（10月1日～15日 能登国四郡公田田数目録案 現物公開）

場所：石川県立図書館3階 閲覧室

- 表紙上部背景：上賀茂神社社紋（左）・下鴨神社社紋（右）
- 表紙下部背景：寿永3年4月24日付 源頼朝下文（当館所蔵 森田文庫「北徴遺文」より）
- 裏表紙：北徴遺文

展示によせて

京都市北区に鎮座する世界文化遺産 上賀茂神社（正式名称：
賀茂別雷神社）では、今年、式年遷宮（以下、遷宮）が行われてい
ます。遷宮とは、定期的に神社の建物を建て替えたり、修理したり
することで、平成 26 年（2014）には伊勢神宮（三重県）で、20 年に
一度の遷宮が行われました。上賀茂神社では 21 年に一度遷宮が行わ
れ、現在、江戸時代に造られ、国宝や重要文化財に指定されている
神殿などを修理する作業が進められています。

そうした遷宮が行われている上賀茂神社と加賀・能登（現在の石
川県）は、深いつながりがあります。かつて、中世（平安時代後期
～戦国時代）には、上賀茂神社の荘園（社領）として、加賀に「金津荘」、
能登に「土田荘」・「桃浦」が存在し、そこに住む住民たちは年貢を
同社に納めていました。そして、上賀茂神社には、その年貢に関係
する書類や住民らから送られた手紙などの古文書が、数多く残され
ています。また、荘園がなくなった現在でも、京都三大祭りの一つ
である葵祭の中に、「金津荘」・「土田荘」の痕跡が残されています。

本企画展示では、当館に所蔵されている史資料を中心に、上賀茂
神社と加賀・能登のかかわりについて、紹介します。

石川県立図書館

目 次

1	神話と由緒	1
2	京都三大祭「葵祭」と加賀・能登の荘園	1
3	上賀茂神社と加賀・能登の荘園	3
	金津荘	4
	土田荘	6
4	関連図書一覧	8

1◆神話と由緒

上賀茂神社は、平安京が建設される前から現在の京都の地に住んでいた賀茂氏の氏神とされます。

同社の創建について「山城国風土記」逸文には、次のように記されています。

賀茂建角身命かもたけつぬみのみことの娘・玉依日売たまよりひめが小川こがわで川遊びかわあそびをしていると、丹塗矢にじぬりやが川上より流れてきました。玉依日売は、それを手に取って持ち帰り、床とこのあたりに置いておくと男子を懐妊したのです。その後、男子は成人となり、その宴の席で祖父である賀茂建角身命が「おまえの父と思う人に酒を持っていきなさい」といったところ、天に向かって飛び立っていきました。そうしたことから、父は神（雷神とされる）であることがわかり、男子は賀茂別雷命かもわけいかづちのみこと（雷を裂くことができるほどの力を持った神の意）と名付けられたといわれます。

同社は後に、山城国一ノ宮となり、都を守る神でもあったことから、伊勢神宮に次ぐ神社として崇敬を集めました。

2◆京都三大祭「葵祭」と加賀・能登の荘園

京都三大祭のひとつに、毎年5月15日に開催される「葵祭」あおいまつりがあります。本来は「賀茂祭」かもまつりと称される上賀茂神社と下鴨神社の神事で、平安時代の装束をまとった約500名の人々が、京都御所から下鴨神社、上賀茂神社の順で街中をねり歩きます。古くは「源氏物語」や「枕草紙」まくらのそうしの中にも登場し、三大祭の中では最も古い歴史を有する祭です。

その行事のひとつに、5月1日と5日に賀茂競馬かもくらべうま（競馬会神事）という神事があります。2頭1組の馬を競わせるもので、堀川天皇の時代、寛治7年（1093）、それまで宮中の武徳殿ぶとくでんで行われていたものを上賀茂神社に移して開催するようになったのが起源とされています。上賀茂神社で行われるようになった際、その費用を負担する領地として、全国の19カ国、20カ所の荘園しょうえん（社領）が寄進されました。その荘園は競馬料所と称され、賀茂競馬に出走する馬や費用を神社に納めていました。

競馬料所とされる20カ所のうちには、加賀では金津荘、能登では土田荘が含まれていません。そして、競馬に出場する馬は、20カ所の荘園の名前を背負うのが例となっており、金津荘は第2に、土田荘は第4に位置づけられています。900年以上経過した今でもその伝統は生き続けており、儀式の中で加賀・能登の荘園の名が生き続けているのです。

3◆上賀茂神社と加賀・能登の荘園

荘園とは、中世（平安時代後期～戦国時代）において、皇族や貴族、大寺社などが私的に所有した土地・権利のことです。

上賀茂神社では、全国に約50ヶ所の荘園（社領・神領）を有し、加賀には「金津荘」、能登には「土田荘」および「桃浦」が存在しました。同社には、2つの荘園に関する古文書が数多く残され、そのほかの古文書と共に国重要文化財に指定されています。



■ ■ ■ 金津莊 ■ ■ ■

現在のかほく市のほぼ全域にあたる地域（北部と東南部を除く）に存在し、「賀州神領」とも称されました。

その成立は、平安時代後期の寛治4年（1090）に朝廷が賀茂下上社に社領を寄進した時と考えられます。そして、戦国時代の史料によれば、荘内は10ヶ村で構成されていたようです。

鎌倉時代には、南に接する北英田保との境界相論きたあがたのほ そうるんが繰り返され、鎌倉幕府から出された判決文かんとうげちじょう（関東下知状）が残されています。

古文書が多く残されている室町・戦国時代の年貢徴収については、加賀国の国守的存在である守護しゅごや地元の武士たちが上賀茂神社に代わって集める守護請しゅごうけ・代官請だい官うけ、同社の使者が直接現地に赴いて集める直務支配じきむしはいなどの方法がとられました。現在でも、その時に現地の百姓たちとやり取りをした書状や、徴収額と経費などを記した算用状さんようじょうが残されています。

なお、戦国時代の始まりである応仁・文明の乱のさなかにあたる文明2年（1470）5月、戦乱の京都を避けて、上賀茂神社の御正体みしょうたいや宝物が加賀国の同社領（金津莊）に仮遷座し、これは弘治年間（鎌倉末期）の大乱時の例にならったものとの噂が奈良周辺で広がりました。ほかにこの出来事を証明する史料は残されていませんが、上賀茂神社にとって金津莊がいかに重要視されていたかをうかがい知ることができます。

中世後期に勢力を誇った加賀一向一揆の下では、その上位に立つ本願寺の力を借りながら年貢の徴収にあたり、全国の莊園が実態を失う中で、わずかであっても収益を確保することができる重要な存在でした。

天正11年（1583）、羽柴秀吉（豊臣秀吉）は、能登と加賀北部を治めていた前田利家に対し上賀茂神社に金津莊の保有を保障するように命令します。しかし、太閤検地などの政策が進行していく中で、その権利は消滅していきました。



◎金津荘の風景



金津荘東部の様子（かほく市上田名）



金津荘の南部に広がる河北潟（かほく市内日角）



金津荘西部の砂丘地（かほく市高松）



金津荘総鎮守とされる賀茂神社（かほく市横山）

◎石川県立図書館所蔵資料と金津荘

畏言上候、仍御上使山本与五郎殿并御書謹拝見
 仕、就御公用之義蒙仰候、則三千足運上申候、委
 曲之段、猶以從御代官、可有御申候、此等之趣、
 有御意得、御披露肝要候、恐惶謹言、
 九月十三日 金津荘 御百姓中判

文書写真『石川県史資料 近世篇(6)』北徴遺文 二より

当館に所蔵されている「北徴遺文」は、郷土歴史研究家・森田柿園^{ほくちょういぶん}（1823～1908）が、加賀・能登・越中に関わる中世前期から藩政期にかけての文書811点を書き写したものです。中には、金津荘・土田荘に関する文書も収録されており、左の文書は金津荘の百姓（中世には広く一般の人々を意味）から上賀茂神社の使者へ、年貢を納めたことを伝える内容が記されています。原本は、現在でも上賀茂神社に伝えられており、くらべてみると多少の写し違いがあります。ただし、北徴遺文に収録されている文書等には、原本が失われてしまったものも多く、貴重な史料集となっています。

■ ■ ■ 土 田 荘 ■ ■ ■

土田荘は、保延2年（1136）に上賀茂神社領として成立し、そののち領域を拡大させていきました。しかし、保元元年（1156）に後白河天皇が、荘園の乱立抑制を目指して発布した「保元新制」により、荘域が著しく削減されてしまいました。

寿永3年（1184）に源頼朝が安堵（保障）した上賀茂神社領荘園のうちに見える能登国土田荘は、新制によって縮小された荘域で、現在の羽咋郡志賀町加茂地区（矢駄・倉垣・安津見）付近と考えられます。また、頼朝が安堵した荘園の中には土田荘と並んで桃浦が見え、現在の志賀町の海沿いに位置する百浦周辺と推定されています。のちの時代になると、近くに位置する2つの上賀茂神社領は、土田荘山方（本来の土田荘）、土田荘浜方（本来の桃浦）と称され、1つの荘園としてみられるようになりました。なお、土田荘について

土田荘付近図（『上賀茂のもり・やしろ・まつり』より）

地元の人々は、「土田賀茂荘」「能登賀茂荘」と呼びならわしていたようで、鎌倉時代の承久3年（1221）9月6日付の能登国四郡公田田数目録案（当館所蔵）に「賀茂荘」と記されています。

さて、土田荘の年貢については、室町時代以来、能登守護畠山氏による請負代官（守護請）となっていました。そして、集められた年貢については、上賀茂神社側から使者が派遣され、受け取っていましたが、百姓たちが困窮していることなどを理由に、守護側からなかなか受け取れないケースもありました。また、京都の金融業者（土倉）が、使者となって能登へ向かうケースが度々あり、これは当時の上賀茂神社が債務返済のためにとった苦肉の策でした。

土田荘も戦国時代の終わりころになると年貢が納められなくなり、金津荘と同様に羽柴秀吉が前田利家に対して安堵するよう求めた書状を送っていますが、実態を伴わず、上賀茂神社領としての権利は消滅していきました。



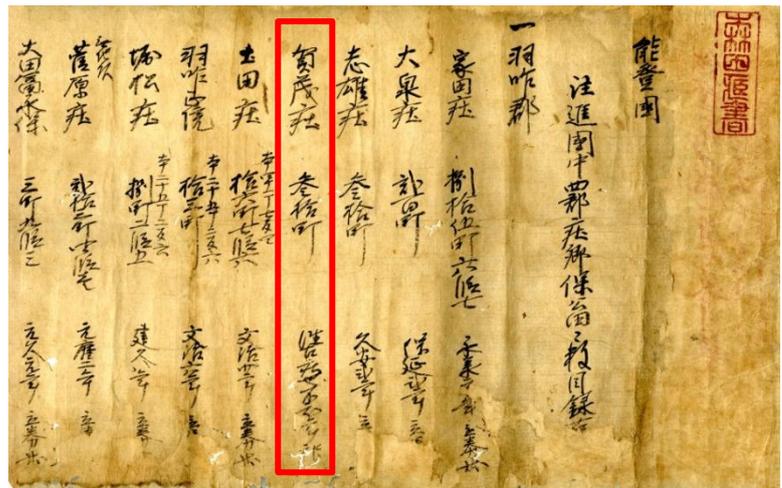
土田荘の荘鎮守であった賀茂神社（志賀町矢駄）



土田荘の風景（志賀町矢駄）

◎石川県立図書館所蔵資料と土田荘

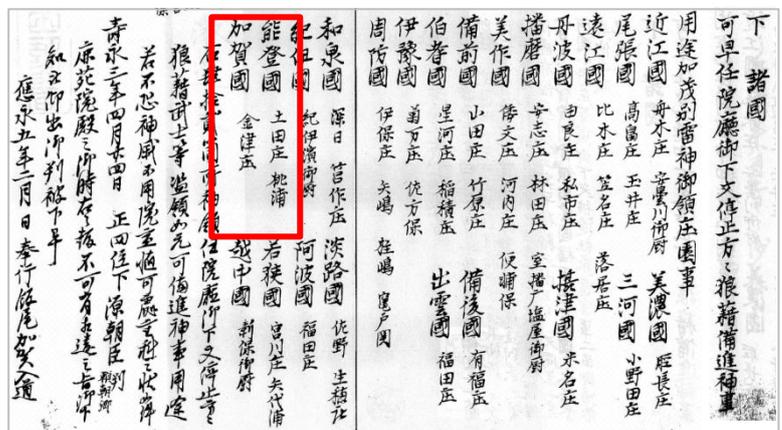
当館に所蔵されている「能登国四郡公田田数目録案」(能登国大田文)は、鎌倉時代の能登国にあった、80ヶ所の荘園や公領の名称、公田の面積を記入した土地台帳です。承久3年(1221)9月6日に能登国衛の手で作成されたもので、中世能登の荘園の様子をうかがう第一級史料です。



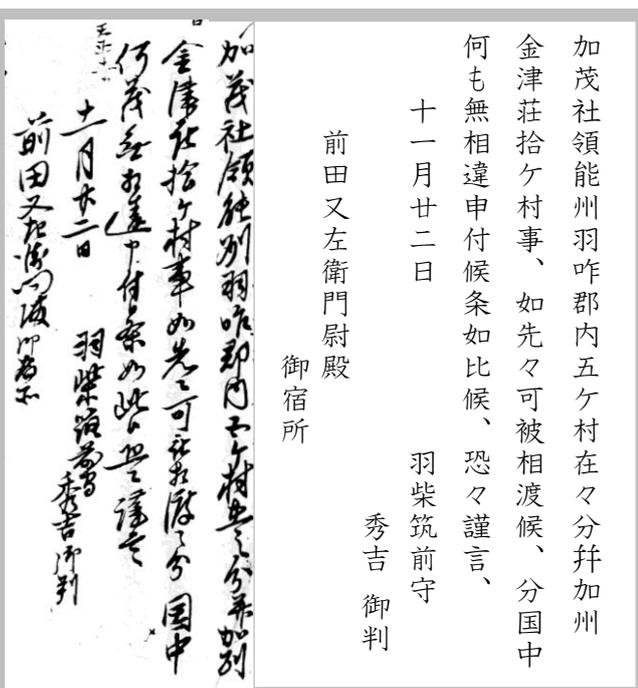
能登国四郡公田田数目録案(部分)

この中には、「賀茂荘」と「土田荘」が記されていますが、上賀茂神社領は前記したように前者です。一方の「土田荘」は、「賀茂荘」に隣接してあった別の荘園で、地元ではそれら呼び分けるために別の名称が使われていたようです。

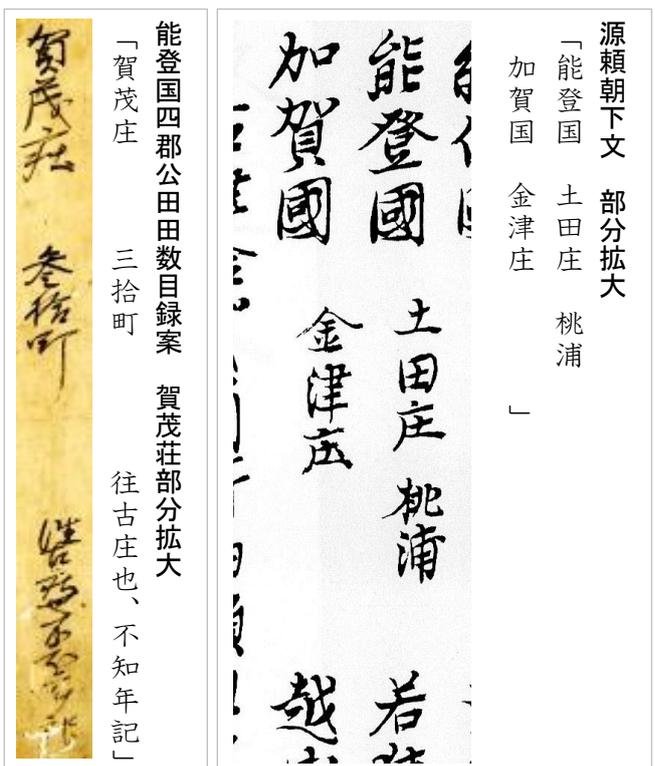
このほか、先ほども紹介した北徴遺文に、土田荘に関わる古文書の写しが多く掲載されています。



源頼朝が上賀茂神社領を安堵した文書(源頼朝下文・北徴遺文より)



羽柴秀吉が上賀茂神社領の安堵について前田利家に命じた書状(羽柴秀吉書状・北徴遺文より)



4◆関連図書一覧

京都上賀茂神社関連書名

No.	書名	著者名	出版社	出版年	請求記号
1	賀茂社	三好/和義 ほか著	淡交社	2004	175.9/10037/6
2	世界に誇る日本の世界遺産 5 古都京都	西村/幸夫 監修	ポプラ社	2014	709/ㄗ/5
3	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 2 古都京都の文化財	倉部きよたか 著	岩崎書店	2007	709/ㄗ/2
4	水と世界遺産 景観・環境・暮らしをめぐる	秋道/智彌 編	小学館	2007	709/10053
5	行ってみよう!京都・奈良図鑑	全国修学旅行研究協会 監修	ポプラ社	2013	291/4
6	神仏習合の歴史と儀礼空間	嵯峨井/建 著	思文閣出版	2013	162.1/10089

金津荘・土田荘関連書名（書名に●は金津荘、○は土田荘関連）

No.	書名	著者名	出版社	出版年	請求記号
1	石川県宇ノ気町史●	宇ノ気町史編纂委員会 編	宇ノ気町	1970	K221/10
2	石川県高松町史●	高松町史編纂委員会 編	高松町	1974	K221/14
3	七塚町史●	七塚町史編纂専門委員会 編	七塚町	1976	K221/15
4	志賀町史 第5巻 沿革編○	志賀町史編纂委員会 編	志賀町	1980	K217/13/5
5	角川日本地名大辞典 17 石川県●○	「角川日本地名大辞典」編纂委員会 編	角川書店	1981	K290.3/228
6	日本歴史地名大系 17 石川県の地名●○	平凡社 編	平凡社	1991	K290.3/309
7	ふるさと石川歴史館○	橋本/澄夫 [ほか]編集委員	北国新聞社	2002	K209/1005
8	書府太郎 石川県大百科事典 上巻●○	北国新聞社出版局 編集	北国新聞社	2004	K030/1003/1
9	たかまつの礎 高松町史●	高松町 [編]	高松町	2004	K221/1003
10	海と砂丘のふるさと 図説七塚町記念誌●	七塚町記念誌編纂委員会 編集	七塚町	2004	K221/1004
11	上賀茂のもり・やしろ・まつり●○	大山/喬平 監修	思文閣出版	2006	175.9/10054
12	図説加賀の歴史●	田中/創 編集	郷土出版社	2011	K220/1002
13	住みよいまちへ かほく市制 10 周年記念誌●	北国新聞社出版局 編集・制作	かほく市	2015	K221/1013

金津荘・土田荘関連史料集（書名に●は金津荘、○は土田荘関連）

No.	書名	著者名	出版社	出版年	請求記号
1	志賀町史 資料編 第1巻○	志賀町史編纂委員会 編	志賀町	1974	K217/13/1
2	高松町史 史料編●	高松町史編纂委員会 編	高松町	1983	K221/21/1
3	史料纂集 賀茂別雷神社書 第1●○	奥野/高広 校訂	続群書類従完成会	1988	210.08/66/12-1
4	賀茂別雷神社文書目録●○	京都府教育委員会 編	京都府教育委員会	2003	210.03/10072
5	加能史料 鎌倉編～戦国編●○	加能史料編纂委員会 編	石川県		
6	石川県史資料●○ 近世篇（六）北徴遺文	石川県史調査委員会・ 石川県立図書館史料編さん室	石川県	2006	k209/26/2-6

神領能別加賀庄
加賀社領加賀国金澤社

第223回企画展示
京都 上賀茂神社と加賀・能登

●編集・発行●
石川県立図書館
(金沢市本多町 3-2-15)

●発行日●
平成27年(2015)9月11日